

## 令和5年度アイヌ施策推進地域計画目標評価報告書

実施主体名	計画の名称	目標年度
札幌市	札幌市アイヌ施策実施プラン	令和5年度

### 1. 目標の達成状況

アイヌ施策推進地域計画における目標	目標値 (A)	実績値 (B)	達成率 (%) (B/A)	備考
体験交流事業参加者数	150 人/年間	102 人/年間	68%	
文化体験講座参加者数	300 人/年間	238 人/年間	79%	
アイヌ文化交流センター来館者数	62,000 人/年間	41,091 人/年間	66%	
民族共生象徴空間バスツアー参加者数	1,000 人/年間	1,101 人/年間	110%	
アイヌ民芸品販売会購買者数	1,000 人/年間	1,228 人/年間	123%	
体験プログラム参加学校数	130 校/年間	151 校/年間	116%	

アイヌ施策推進地域計画における目標	達成状況	備考
体験交流事業参加者数	新規参加者のすそ野の広がりが弱く、目標値の達成には至らなかったものの、リピート参加者が増えつつあり、関心の高い層の創出に寄与した。	
文化体験講座参加者数	一部の講座について、天候不順による中止や、効果を高めるため少人数での開催に変更したことにより目標値の達成には至らなかったものの、講座全体として参加者は増えつつあり、関心の高い層の創出にも寄与した。	
アイヌ文化交流センター来館者数	目標値の達成には至らなかったが、修学旅行等の団体客など一部に鈍さはありつつも、新型コロナウイルス感染症による客足の落ち込みからは回復傾向にある。	
民族共生象徴空間バスツアー参加者数	応募単位を町内会単位 (R4) から個人単位 (R5) に変更した結果、定員を上回る応募があり、バスの充足率も高めることができたことにより、目標値を達成した。	
アイヌ民芸品販売会購買者数	実施時期の見直しや実演・ワークショップに関する情報発信の充実といった販売会全体の実施方法の工夫により、目標値を達成した。	
体験プログラム参加学校数	実施時期を学校の参加しやすい時期に設定したほか、プログラムの工夫や送迎バスの運行等により、目標値を達成した。	

【札幌市アイヌ施策推進委員会委員による意見等】

- ・各種事業については、スケジュールやイベント内容、募集方法を工夫するとともに、効果的な広報を実施していくことが必要である。
  - ・アイヌ文化交流センターについては、イベント内容や展示物を充実させることに加え、展示物の紹介方法を工夫し、これまで以上にアイヌ文化を体験できる空間づくりを進めていくことが必要である。
- また、同センターは札幌市中心部から特に離れた場所に位置することから、交通アクセスを改善し、来館しやすい環境づくりが必要である。

## 2. 目標達成のために実施した各事業の進捗状況と効果

### (1) アイヌ文化の保存又は継承に資する事業

事業の進捗状況	事業実施主体
最終年度の数値目標（5年間の最大値）として、体験交流事業の参加者数を150人／年間とした。新規参加者のすそ野の広がりが弱く、最終的には目標達成には至らなかったものの、リピート参加者が増えつつあり、関心の高い層の創出に寄与した。令和6年度以降は、特に新規参加者獲得に向け、実施内容や広報の充実などに取り組んでいく。	札幌市
事業の効果	
体験交流事業の実施を通じ、市民がアイヌ文化を気軽に体験できる機会に加え、アイヌ文化の担い手を育成する機会を創出することにより、アイヌ文化やアイヌ文化の振興に対する興味・関心の喚起につながった。	

### (2) アイヌの伝統等に関する理解の促進に資する事業

事業の進捗状況	事業実施主体
最終年度の数値目標（5年間の最大値）として、文化体験講座の参加者数を300人／年間とした。一部の講座について、天候不順による中止や、効果を高めるため少人数での開催に変更したことにより目標値の達成には至らなかったものの、講座全体として参加者は増えつつあり、関心の高い層の創出にも寄与した。令和6年度以降は、特に新規参加者獲得に向け、実施内容や広報の充実などに取り組んでいく。	札幌市
事業の効果	
市民が気軽にアイヌ民族の歴史や伝統文化に触れる機会を創出することにより、アイヌ文化に対する理解・関心の促進につながった。	

### (3) 観光の振興その他の産業の振興に資する事業

事業の進捗状況	事業実施主体
アイヌ文化交流センターの来館者数は、最終年度の数値目標（5年間の最大値）として62,000人／年間とした。目標値の達成には至らなかったが、	札幌市

<p>修学旅行等の団体客など一部に鈍さはありつつも、新型コロナウイルス感染症による客足の落ち込みからは回復傾向にある。令和6年度以降も引き続き、施設の魅力アップ等に取り組んでいく。</p> <p>民族共生象徴空間バスツアー参加者数は、最終年度の数値目標（5年間の最大値）として1,000人/年間とした。実施手法を工夫したことにより、数値目標を達成することができた。令和6年度以降も引き続き、実施手法や実施時期を工夫して取り組んでいく。</p> <p>アイヌ民芸品販売会における購買者数は、最終年度の数値目標（5年間の最大値）として1,000人/年間とした。実施手法を工夫したことにより、数値目標を達成することができた。令和6年度以降も引き続き出品者と連携の上、来場者のニーズを踏まえた会場の魅力アップ等に取り組んでいく。</p>	
事業の効果	
<p>アイヌ文化交流センター：展示物の充実やアイヌ文化を紹介するシステムの更新等により、来館者がアイヌ文化について理解を深めるための環境がより一層充実した。</p> <p>民族共生象徴空間バスツアー：アイヌの歴史や伝統文化等への理解を深める機会を創出することにより、アイヌ文化に対する興味・関心の喚起につながった。</p> <p>アイヌ民芸品販売会：都心部において気軽にアイヌ工芸品を購入する機会、生活の中で身近にアイヌ文化に触れられる機会を創出することにより、アイヌ文化に対する理解・関心の促進につながった。</p>	

(4) 地域内若しくは地域間の交流及び国際交流の促進に資する事業

事業の進捗状況	事業実施主体
<p>最終年度の数値目標として、体験プログラムの参加学校数を130校/年間としてきた。実施時期を学校の参加しやすい時期に設定したほか、プログラムの工夫や送迎バスの運行等により、数値目標を達成することができた。</p> <p>引き続き、一度参加した学校が継続して参加し、かつ新規実施校も増やすことに向けて取り組んでいきたい。</p>	札幌市
事業の効果	
<p>体験プログラムの提供により、児童・生徒がアイヌの歴史や伝統文化について理解を深めることにつながった。</p>	

3. 今後の方針等

<ul style="list-style-type: none"> <li>令和6年度以降の各種事業については、令和6年度から10年度までの次期地域計画に基づき、アイヌ民族関係者や関係機関との連携のもと、その内容を充実させるとともに、効果的な広報を行い、事業参加者や施設来館者の増加を目指す。</li> <li>アイヌ文化交流センターについて、イベント内容や展示物を充実させるとともに、展示物の紹介方法を工夫し、施設の魅力アップを目指す。</li> <li>また、送迎バスの導入などにより、交通アクセスの改善を目指す。</li> </ul>
---